

十小地域づくりの会のお知らせ

同じ地域に住む住人同士、お互いを知り合い、地域のことについて話し合う場をつくろう、と清瀬市と清瀬市社会福祉協議会が共催で「十小地域づくりの会」を実施しています。

平成29年4月27日(木)に行われた第11回では、地域住民の方、保護者の方、民生児童委員、学校職員、ボランティア従事者、福祉関係者、警察など18名とともに今後の「十小地域づくりの会」について話し合いました。

春の交通安全週間見守り

4月10日・11日の登校時間に活動を行いました。十小の会の保護者の方たちと一緒に危険ポイントに立ち、子ども達が安全に登校できるように見守りました。道路の渡り方や歩道の歩き方など注意が必要な場面も見られましたが、「子ども達のあいさつが気持ちいい」「普段接点のない保護者の人と顔見知りになれた」などの感想も多くいただきました。活動を継続して行こうとなり、次は9月の秋の交通安全週間に、十小の会とともに見守り活動を行う予定です。

誰もが幸せに暮らせる地域とは・・・

第10回では、**菱沼幹男先生**（日本社会事業大学准教授）を講師に勉強会を行いました。自分が支える地域は自分を支えてくれる地域、私の問題は私たちの問題と考え、支えあうことが、幸せに暮らせる地域づくりにつながっていくという話を伺いました。先生の話を取り返りながら、この十小にどんな活動をつくっていききたいか議論しました

- ◆地域で集まれる場=つながれる場をつくる
- ◆団体が協力して常設サロンをつくる
- ◆学校拠点のつながりづくりをする
- ◆災害時の対応を話し合う場をつくる

常設サロンがあるとこんな効果が・・・

参加者同士の見守りができる
いつでも開いている安心感
いろんな年代が集えて交流できる など

自治会が無いエリアが多くある
避難所運営協議会は1度しか開催されていない
災害はいつくるかわからない

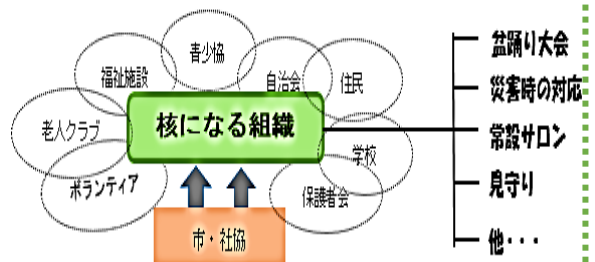
十小盆踊り大会を「十小地域づくりの会」が主催できないか？

現状は十小が企画運営しているが学校行事ではない
学校体制が変わると運営継続が難しくなる
地域で育った子どもが戻ってくることができる
実際はどんな様子なのかかわからない・・・ →今後検討していく

新たな「核になる組織」が必要

いろいろな活動を行っていくためには、自治会等の関わりが必要ではないかという意見がありました。ただ、この十小地域は自治会が少ない実態があります。新たに「核になる組織」をつくっていく必要性について議論しました。

今回は、第11回の内容を取り返りながら、地域を良くする活動を継続してすすめるためにどうしていけばよいか、少し掘り下げながら話し合っていく予定です。ぜひ一緒に考えていきましょう。



話し合いのサイクル

参加者同士の情報交換や地域を知る

地域の課題や現状について話し合う

課題解決に向けた具体的取組み

活動の継続

世話人会の発足

**次回開催は5月26日(金) 13:15～ 清瀬第十小学校2階けやきにて
どなたでも参加できます！ぜひおいでください！**